

6月26日（水曜日）

（第696号）

令和6年（2024年）

全木連時報



木材産業シンボルマーク

発行所

一般社団法人 全国木材組合連合会

所在地 東京都千代田区一番町25番地
全国町村議員会館6階

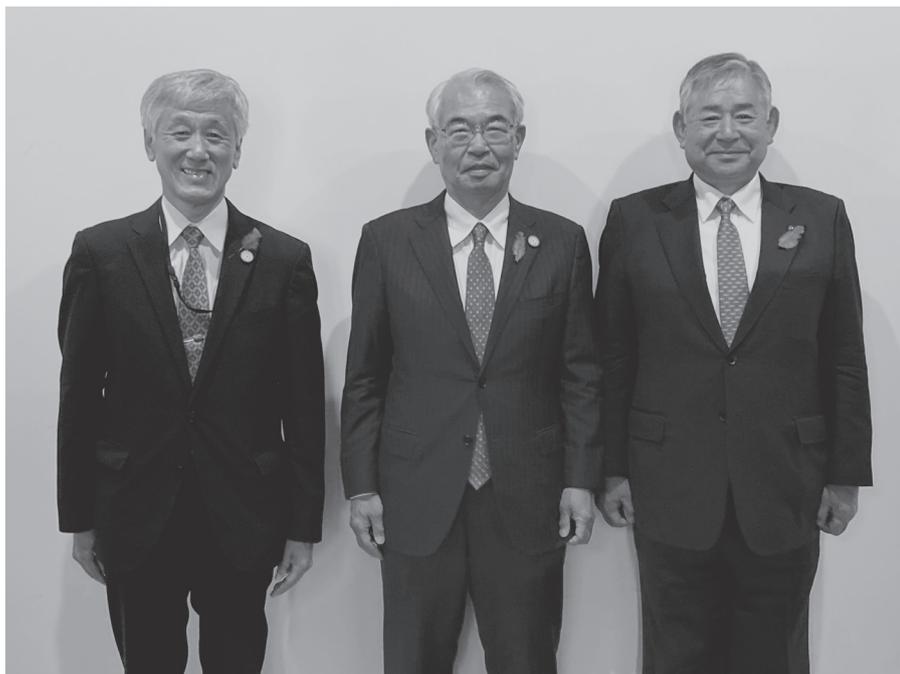
☎ 03(6261)9140 (代)

URL <https://www.zenmoku.jp>

全木連第85回通常総会開催・全木協連第64回通常総会開催

全木連会長、木退共会長、全木政連会長に菅野氏が再任、
全木協連会長に平方氏が就任

（一社）全国木材組合連合会、
全国木材協同組合連合会、（二社）
木材産業退職金共済会、全国木
材産業政治連盟の総会が、5月
16、17日の両日、木材会館（東
京都江東区）で開催され、全国
から大勢の会員が参加した。総
会に先立ち、16日午前に正副会
長会議が開催され、総会の進め
方、当面の懸案事項等について
議論が行われ、今後の方針が確
認された。



新体制の全木連 菅野新会長（右）、全木協連 平方会長 新任（中央）、本郷副会長（左）

【全木連総会】

16日午後、最初に全木連の総
会が開催され、平方群馬県木連
会長の開会宣言に続き、菅野会
長からの挨拶、来賓の青山林野
庁長官、原田国土交通省木造住
宅振興室長から祝辞が述べられ
た。

その後、菅野会長を議長に選
出し、令和5年度事業報告、収
支決算等について審議が行われ
原案どおり承認された後、令和
6年度事業計画、収支予算が報
告された。また、役員改選が行
われた。最後に、菅野康則氏が再任
された。最後に、庄司都木連会
長から閉会の言葉が述べられ、
総会を終了した。



総会で挨拶する菅野会長

菅野全木連会長挨拶

全木連の令和5年度事業等に
ついては、住宅着工が停滞する
など厳しい事業環境の中、「順調
に」とはいきませんでした。が、
何とか会員の皆様のご協力によ
りまして、林野庁御当局の御指
導も仰ぎながら、適切に執行で
きたところであります。皆様方のご協
力、ご支援に対しまして改めて
感謝申し上げます。

ウクライナ侵攻の長期化や中
東情勢など、国際情勢が緊迫す
る中で、世界的な金利の上昇や
急速な円安の進行、電力・燃料
をはじめとする諸物価の上昇、



国土交通省 原田木造住宅振興室長祝辞



林野庁 青山長官祝辞

国際物流の不安定化が進行して
います。

都市の木造化を巡っては、非
住宅、事業用等の民間施設の木
造・木質化の取組が引き続き進
んでいると感じております。ま
た、法律に基づく「建築物木材
利用促進協定」締結の動きが本
格化するなど、施主となる事業
者の木材利用に対する機運が高
まっています。

木造や木質化の建物が当たり
前となる時代に向けて努力して
まいる所存ですので、会員の皆
様方の引き続きのご支援ご協力
のほど、よろしくお願い致しま
す。

また、クリーンウッド法の施
行が令和7年4月と決定され、
今後、円滑な施行に向けて全木
連としても合法性の確認がなさ
れた木材の加工、流通にしま
り取り組んでいくことが重要で
す。合法性の確認がなされた木
材のみを取り扱うという木材産
業振興大会での決議の定着にし
っかり取り組んでまいりたいと
考えています。

さらに、全木連の独自の事業
として4年度まで実施していた
「JAS展」につきましては、審
査対象、審査内容を全面的に見
直し、(仮称)「日本製材技術賞」
に衣替えして、今年度から実施
する予定としています。なお、
一年目である今年度は、農林水産

大臣賞の表彰の要請は見送るこ
ととしていますが、来年度の復
活に向けて、積極的な応募をお
願いします。

今回も、来年度予算編成に向
けて国会議員等に対し、要望活
動を行うこととしております。
予算の面で木材産業・木材利用
に関する施策を提案し、変化を
起こしてまいりたいと考えてお
りますので、皆様のお力添えを
お願いいたします。

本日の総会は、令和5年度の
事業報告・収支決算、役員の選
任等が議題です。

皆様方の活発なご議論と円滑
な議事進行についてご協力をお
願い申し上げ、開会のご挨拶と
いたします。

【全木協連総会】

続いて、全木協連総会が行わ
れ、竹内広島県木連会長の開会
の言葉の後、松原会長の挨拶が
あり、来賓の谷村林政部長から
祝辞が述べられた。



総会で挨拶する松原会長



林野庁 谷村林政部長祝辞

松原会長を議長に選出し、令
和5年度事業報告、決算につい
て審議が行われ原案どおり承認
された後、令和6年度事業計画、
収支予算等が承認された。また、
役員改選が行われ新会長に平方
宏氏を選任し、最後に米澤富山
県木連会長の閉会の言葉で総会
を終了した

松原全木協連会長挨拶

我が国では地球温暖化に対応
し「2050年カーボンニュー
トラル」が宣言され、森林を適
正に管理し、林業・木材産業の
持続性を高めながら成長発展さ
せることで脱炭素社会の実現に
資する「グリーン成長」の取組
が進められております。

このため、「伐って、使って、
植えて、育てる」という資源の
循環利用を進めることが重要に
なっています。木材利用をこの
循環のエンジンとして推進する
ことにより、森林整備を進め、
温暖化対策や生物多様性の保全

自然災害の防止など森林の多面
的機能も発揮させることについ
て国民のご理解を更に深めてい
かなければなりません。

人口減少の前面に立つ山村の
地域社会・経済の持続的な発展
を図る上で、地域の資源である
木材を利用し、雇用や価値を創
出する林業・木材産業は、重要
な産業の一つであり、木材業界
の発展が地域社会の持続的な発
展に貢献するものと考えますが、
人口減少の趨勢の中、木材業界
として非住宅建築における木材
利用の拡大を進めていかなけれ
ばなりません。

現在、木材利用に対する大き
な流れが動き始めたところです。
私達、木材事業者は、ユーザ
ーである川下の皆様と連携して、
品質・性能が確かな木材、合法
木材の供給など需要者に信頼さ
れる取組や安定供給の取組を、
これまで以上に、業界自ら努力
と工夫を重ねて進めていく必要
があると考えます。

全木協連としましては全木連
と力を合わせて取組んでいきたく
いと考えています。引き続きの
ご理解とご協力の程、よろしく
お願い申し上げます。

全木協連の事業につきまして
は、皆様には、厳しい事業環境
の中で、地道な協同組合事業を
行っていたらいており、感謝申
し上げます。大型共済保険事業

等につきましては、依然として
加入者の減等厳しい状況にある
ことから、引き続き安定的な運
営のため、更なる加入者の確保
にご協力をお願いいたします。

本日は、令和5年度の事業報
告・決算、令和6年度の事業計
画及び役員改選についてご審議
いただきます。後ほど、事務局
より、提出議題について説明申
し上げますので、限られた時間
の中ではありませんが、ご審議の
程、よろしくお願い申し上げま
す。

なお、私は、3期6年にわた
りまして全木協連会長を務めさ
せていただきましたが、本日を
もちまして退任させていただきます
たく存じます。皆様方には大変
お世話になりました。

新しい会長の下で、更に木材
利用が進み、木材産業の発展に
向けた全木協連事業の展開が図
られるよう祈念申し上げ、ご挨
拶いたします。

【新 平方全木協連会長挨拶と プロフィール】

(挨拶)

第12代全木協連会長に就任し
た平方宏会長は、「全木協連設立
の目的である会員の相互扶助の
精神に基づき、地域の木材産業
の経営の安定化、活動の活性化
を図り木材業界の発展に取り組
みたい。また、非住宅分野を含

いくことが必要となっています。「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の制定を契機に耐火建築部材等の技術革新が進み、中高層建築物等の木造化の可能性が大きく広がり、SDGs、ESG投資、2050年カーボンニュートラル等の流れもあつて、大都市を中心に民間の中高層建築物の木造化・木質化も着実に進み始めているところと見られます。

こうした中、先生方のご尽力により、令和3年に「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が制定・施行され、対象が民間建築物にまで拡がるとともに、木材利用促進本部の設置により国を挙げての取組が行われております。事業者等との建築物木材利用促進協定の締結については国、地方公共団体合わせて125件に達し、さらに増加する見込みです。

木材は、製造時の二酸化炭素排出量が極めて少なく、かつ省エネルギーであるとともに、木造建築物として使用される間は森林が吸収した二酸化炭素を再び大気に放出することなく、炭素を貯蔵するなど脱炭素社会の実現に確実に貢献でき、しかも再生産が可能な資源です。森林・林業の持続可能性や木材に関する経済安全保障が求め

られる中、都市（まち）の木造化を着実に進めていくためには、国産材の安定供給や需要拡大に向けた各種制度の一段の見直し及び再造林等の森林整備から都市における建築物の木材利用に至るまでの多様な施策の創設・実施等が極めて重要と認識しております。

記

つきましては、左記の事項について要望いたします。

1. 脱炭素化社会の実現に向けて、建築主等の中高層建築物の木造化への取組意欲の向上を図るため、建築物にかかる二酸化炭素排出抑制等の観点から木造化・木質化が評価される方策を構築・普及し、税制、金融、会計、保険などの諸制度の見直しを行うこと。特に、木造建築物の耐用年数の課題については、令和6年において結論が得られるよう検討を進めること。

2. 木造建築物の魅力を更に引き出していくため、柱、梁、内外壁面への「現（あらわ）し」による木材利用を促進するための耐火性、耐候性に関する技術開発への支援を拡充するとともに、防火・構造規定等関連する制度の見直しを継続し、加速化すること。

木材に関する経済安全保障やSDGsへの貢献を図るため、

合法伐採及び再造林等の森林整備の推進、路網や木材加工流通施設の整備等による供給力強化、林業・木材産業の担い手の確保、建築物への木材利用に至るまでの国産材のサプライチェーンの普及・拡大、地域における建築物木材利用促進協定締結者の実践活動への支援、協定締結促進のための関係省庁の予算や優遇措置を拡充すること。

3. 地方都市等において、地元建設関連事業者が地域材を使用し、中規模、中層の木造建築物等に取り組みやすい環境づくりに向け、地域の設計者、施工者間で広く展開できる構法及びそれを実現するための部材供給等の枠組みの整備のための関係省庁の予算や支援措置を拡充すること。
4. 持続性の担保された木材が求められる国際社会の潮流にあつて、持続可能な森林経営を実践する国内林業を支援し、その森林から生産された木材の優先利用を国民・企業へ普及・PRするとともに、「伐って、使って、植えて、育てる」という循環利用の仕組みを構築し、普及すること。

令和6年3月26日
森林（もり）を活かす都市（まち）の木造化推進協議会
会長 島田泰助

林業信用保証のご案内



- 林業・木材産業を営む方（注1）であれば、どなたでもご利用が可能（注2）です。
- 保証料率は財務内容により、年0.15%から1.80%が適用されます。
- 仕入れや人件費の支払い、加工設備の導入等の事業資金全般が対象です。
- 都道府県が無利子や低利で貸し付ける「制度資金」への保証も可能です。



注1：造林・育林、素材生産、木材・木製品製造、林業種苗生産、薪炭生産、きのこ生産、木材卸売等、木材製品利用が対象です。

注2：ご利用には審査があります。

詳しくはこちらへ

独立行政法人農林漁業信用基金
林業信用保証管理部 TEL03-3434-7825
<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/index.html>



第15回「新たな木材利用事例発表会」 JAS材の普及拡大に向けて」の概要」の概要

（一社）全国木材組合連合会及び木材利用推進中央協議会は、第15回「新たな木材利用事例発表会」JAS材の普及拡大に向けて」を令和6年1月29日（月）13時30分～16時20分、木材会館7階ホールでの会場参加とWEB参加との併用により開催した。

発表会には木材関係業界のほか、建築・設計、土木、家具・建具、行政・地方公共団体等、幅広い業種の方々を含め、会場約70名、WEB約300名が参加した。

開催に当たりまして、多大なご協力・ご支援をいただいた関係各位の皆様にお礼申し上げます。

1 開催日等

日時 令和6年1月29日（月）
13時30分～16時20分

場所 木材会館7階ホール（東京都江東区新木場1-18-8）、WEB併用

主催 一般社団法人 全国木材組合連合会、木材利用推進中央協議会

後援 林野庁、国土交通省、（公財）日本住宅・木材技術センター、（一財）日本木材総合情報センター

参加

木材関係、建築・設計、土木、家具・建具、行政・地方公共団体等 会場 約70名、WEB約300名

2 事例発表

○第一部 13時35分～13時55分
「製材JASの供給・利用の拡大に向けて」

林野庁林政部木材産業課上席
木材専門官 鈴木清史氏



○第二部 13時55分～14時25分

「木材供給体制とJAS材生産の取り組み」

協和木材株式会社 専務取締役
佐川和佳子氏



○第三部 14時25分～14時55分

「カーボンニュートラル社会に向けた木材利用の取組とJAS材への期待」

株式会社竹中工務店 木造・木質建築推進本部
シニアチーフエンジニア 小林道和氏



○第四部 15時05分～15時35分

「マクドナルドの国産木材の活用状況 Planet Project」

日本マクドナルド株式会社 店舗開発本部 設計建設部 投資モデル最適化部 部長 佐藤弘樹氏



3 パネルディスカッション

「なぜ木材を利用するのか」
（パネラー）

鈴木清史氏、佐川和佳子氏、小林道和氏、佐藤弘樹氏

“2024ミス日本みどりの大使を紹介します”

2015年より森林・林業・木材産業の応援団として活動してきました。各種イベントでのご活躍に期待しています。

★ミス日本みどりの大使の役割

未来に繋がる豊かな緑を守り育ててきた取り組みや、生活に根ざした日本の木の文化の大切さと素晴らしさを伝え、みどりと木への親しみを広める役割を担います。



ミス日本みどりの大使

安藤 きらり
あんどう きらり

（プロフィール）

- ・出身地 東京都
- ・年齢 23歳
- ・職業 大学生
- ・身長 160cm
- ・趣味 水泳、鶏の飼育
- ・特技 チアダンス、鶏の爪を整えること
- ・将来の希望 子供たちの将来を豊かにすること

景況調査

令和6年5月分集計表

()内は実数

〔流通部門〕

モニター数156 回答102 回収率65%

〔製造部門〕

モニター数134 回答数95 回収率71%

・当月の状況

販売量	増加11% (11)	変わらず56% (55)	減少33% (32)
仕入量	増加11% (11)	変わらず51% (50)	減少38% (37)
販売価格	上昇4% (4)	変わらず87% (85)	下降9% (9)
仕入価格	上昇13% (13)	変わらず81% (79)	下降6% (6)

・当月の状況

販売量	増加20% (19)	変わらず54% (51)	減少26% (25)
仕入量	増加14% (13)	変わらず54% (51)	減少33% (31)
販売価格	上昇5% (5)	変わらず81% (77)	下降14% (13)
仕入価格	上昇7% (7)	変わらず84% (80)	下降8% (8)

・来月の見通し

販売量	増加20% (20)	変わらず61% (60)	減少18% (18)
仕入量	増加20% (20)	変わらず64% (63)	減少15% (15)
販売価格	強含み11% (11)	保ち合い83% (81)	弱含み6% (6)
仕入価格	強含み15% (15)	保ち合い79% (77)	弱含み6% (6)

・来月の見通し

販売量	増加20% (19)	変わらず63% (60)	減少17% (16)
仕入量	増加14% (13)	変わらず65% (62)	減少21% (20)
販売価格	強含み6% (6)	保ち合い81% (77)	弱含み13% (12)
仕入価格	強含み11% (10)	保ち合い81% (77)	弱含み8% (8)

3ヵ月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	16% (11)	71% (49)	13% (9)
南洋材	16% (9)	79% (45)	5% (3)
北洋材(欧州材を含む)	42% (27)	49% (32)	9% (6)
国産材	8% (7)	73% (61)	19% (16)
建材	26% (17)	62% (40)	12% (8)

3ヵ月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	30% (10)	48% (16)	21% (7)
南洋材	36% (8)	50% (11)	14% (3)
北洋材(欧州材を含む)	33% (9)	56% (15)	11% (3)
国産材	10% (9)	56% (50)	34% (31)

・プレカットの動向

発注後、加工までの待ち時間	1ヶ月以内	1ヶ月	1ヶ月以上
	43% (26)	52% (32)	5% (3)

・プレカットの動向

受注後、加工までの待ち時間	1ヶ月以内	1ヶ月	1ヶ月以上
	49% (18)	41% (15)	11% (4)

新事務所のご案内 ～ 令和6年6月10日から業務を始めました～

■ 電話番号表

部署名	番号(直通)
代表番号(総務部)	03-6261-9140
総務・経理・木材産業退職金共済会	03-6261-9140
木材利用推進中央協議会	03-6261-9134
木材表示推進協議会	
日本ツーバイフォーランバーJAS協議会	
全国木材産業政治連盟	
森林を活かす都市の木造化推進協議会	03-6261-9135
総会・理事会	03-6261-9136
外国人材・作業安全	03-6261-9137
合法木材・クリーンウッド法	
全国木材協同組合連合会	03-6261-9138
全国木造住宅機械プレカット協会	03-6261-9139

FAX番号(全部門共通)	03-6261-9133
--------------	--------------



事務室木質化エントランス

<団体名>

(一社) 全国木材組合連合会、全国木材協同組合連合会、(一社) 木材産業退職金共済会、
 全国木材産業政治連盟、木材利用推進中央協議会、(一社) 木材表示推進協議会、
 (一社) 全国木造住宅機械プレカット協会、日本ツーバイフォーランバー JAS 協議会、
 森林を活かす都市の木造化推進協議会

◆新事務所

全国町村議員会館(6階)
 〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地

◆アクセス

- 地下鉄
 ・地下鉄半蔵門線半蔵門駅 4番出口直ぐ
 3・5番出口徒歩2分
 ・地下鉄有楽町線麴町駅 3番出口より徒歩6分
 タクシー
 ・東京駅より約20分

